

茨城県图画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告（令和元年8月）

研究テーマ	自分のイメージを思い通りに表現できる学習指導の工夫 —小学校第2学年「とろとろ絵の具となかよし」の実践を通して—
-------	---

小美玉市立下吉影小学校 教諭

I 研究テーマについて

小学校学習指導要領图画工作科の第1学年及び第2学年の目標には、「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や全体の感覚などを働きかせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり、表したりすることができるようになる」と示されている。これに基づき、内容A表現（1）イには、「感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること」と示されている。また、子どもは材料を触って形の感じや質感を捉えたり、材料を見つめながら色の特色に気付いたりして、直感的に対象の特徴と捉えようと試みる。そうした感じや特色から、自分なりのイメージをもち、実際に構想を練っていく。このように、イメージする力は、表現の基本であり、他人や社会とかかわっていくコミュニケーション能力のもとになるものである。

のことから、表現の基盤であるイメージする力を重視し、一人一人の児童が豊かにイメージをふくらませられるような活動が重要となっている。

そこで、絵に表す活動において児童が自分のイメージを思い通りに表現できるようになるためには、児童が自分のイメージを明確にしながらよりよい表現方法を見付けたりえらんだりすることが必要だと考え、本研究主題を設定した。

II 研究の実際

1 題材名 とろとろ絵のぐとなかよし

2 題材の目標

- 指や手で思いのままにかくことを楽しもうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 試しながら生まれてくる形や色を基に、自分の表したいことを見付けることができる。 (発想の能力)
- 指や手で思いに合う表し方を工夫することができる。 (創造的な技能)
- 自分や友人の作品のよさや活動の楽しさ、面白さを見付けることができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態 (男子8名、女子3名、計11名)

本学級の児童は、9月に行ったアンケートの結果、「图画工作的学習は好きである」と答えた児童は9名で、「絵に表す活動が好きである」と答えた児童は8名であり、図工の時間はいつも意欲的に活動している。児童は1年生の時から、たくさんの絵を描いてきた。「生き物を飼ったよ」「遠足の思い出」「好きなものなあに」など、見たことや経験したことなどを絵に表す活動に対しては、積極的に取り組む児童がほとんどであった。しかし、自分で思いついたことを絵に表す活動に対しては、何を描けば良いのか分からなくなる児童もいた。これらのことから、本題材を通して、自分の思いに合う表し方を工夫し、イメージを広げながら絵に表す力を身に付けさせる。

(2) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領図画工作科の第1学年及び第2学年 A 表現（1）イ「感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること」を受けて設定した。

この題材では、自分で液体粘土と絵の具を作り、手や全体を使って絵に表す。下の色が乾き切らない上に色を重ねて引っ搔いたり、混色や単色を使い分けたり、指先や爪を使ったりするなどの表現方法を見付け出していく。思いついたことをどんどん試す行為や生まれてくる形や色から自分のイメージをわきあげ、そのわきあがってきたイメージから表したいことを見付け、工夫して絵に表していくことができるようとする。

(3) 指導観

本題材では、手や指、体全体の感覚を働かせて自分で作った滑らかな絵の具の感触や、色の変化を楽しみながらイメージを探る事を大切にする。導入では、教師が実際に手や指に付けてかいてみせる。指先でそっとポンポンとおく、たっぷりの絵の具をぐいっと塗り広げる、腕の動きで生まれる線など2～3のパターンを見せ、活動の見通しをもたせる。その後、児童が試し表しながら自分がつくって画面においた形や色からイメージを探らせるようにする。下の色が乾き切らないうちに色を重ねて引っ搔いたり、画面の上で新しい色をつくったりと、様々な書き方を試し表す時間を十分確保したい。このことで、初めて出会う液体粘土に慣れ、様々な色や形の表し方を発見できると考える。また、友達と交流させることで、工夫の仕方を見付け出しにくい児童が安心して活動したり、知らなかつた表現方法を発見し取り入れたりすることができると考える。

とろとろ絵の具の表現方法を技能として習得させておき、その技能から、自分の思いに合う表し方を見付けて工夫して絵に表すことができるようになさせたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
指や手で思いのままにかくことを楽しもうとする。	試しながら生まれてくる形や色を基に、自分の表したいことを見付けることができる。	指や手で思いに合う表し方を工夫することができる。	自分や友人の作品や活動の楽しさや面白さを見付けることができる。

5 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準 【評価方法】
第1次 (1時間)	とろとろ絵の具を作り、手や指で絵に表す活動への関心や見通しを持つ。 思いのままに手や指で塗ったりかいたりすることを楽しむ。	指や手で思いのままにかくことを楽しもうとする。 【発言】 試しながら生まれてくる形や色を基に、自分の表したいことを見付けることができる。 【作品】
第2次 (1時間)	いろいろ試しながら思いついたことを、表し方を工夫し	指や手で思いに合う表し方を工夫することができる

	て表す。	【作品】
第3次 (1時間)	自分や友達の作品の表し方のよさを見付けたり、話し合ったりする。	自分の作品について話したり、友人の話を聞いたりしながら、組み合わせてできたもののおもしろさに気付くことができる。

【ワークシート】

6 指導の実際

① 材料コーナー

カップに絵の具と液体粘土を混せておく。児童が様々な色を選んで混色できるよう、カップは1人10個程度用意した。児童は用意してある材料を見ると、「はやくやってみたい」とすぐに興味をもった。導入で教師が実際に手に付けて少しかいて見せる時間を設けた。手を素早く動かしてみたり、たっぷりつけてポンポンと置いてみたりすると、児童から歓声があがつた。活動の見通しをもたせることができた。

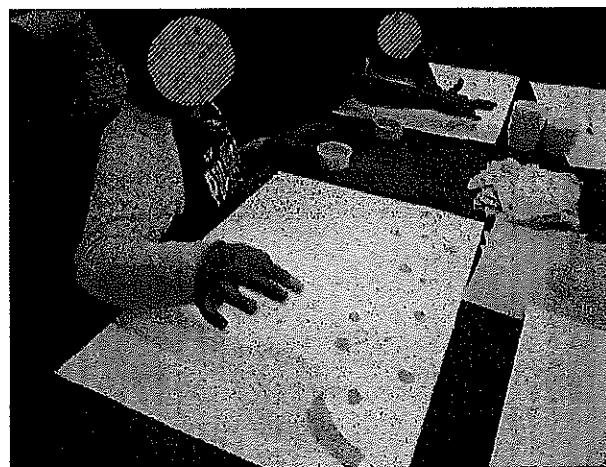


② 絵の具を一色たらし、絵の具とかかわる。

児童は画用紙の上で、思いのままに手や指で塗ったりかいたりしながら、感触を味ねっていた。

【児童からでた反応】

- ・気持ちいい
- ・気持ち悪い
- ・つめたい
- ・ヨーグルトみたい
- ・どろどろする
- ・少しずつ慣れてきた

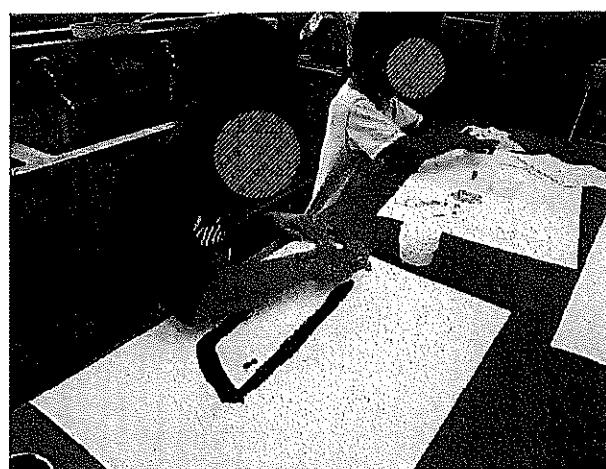


③ いろいろなことを試してみる。

児童は慣れてくるといろいろなことを試し始めた。はじめは触ることすら躊躇していた児童が、色を混ぜたり、どんなことができるか探ったりしていた。

【児童が見付けた工夫】

- ・たらしてみる。
- ・手形をおす。
- ・紙の上で色を混ぜる。
- ・つめでひっかく。
- ・手を素早く動かす。
- ・たっぷりつけてみる。
- ・手のひら全体で広げる。
- ・指先でかく。



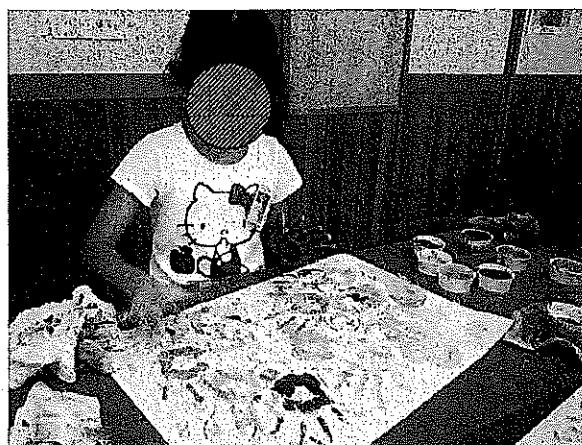
④ 自分のイメージしたことを作り出す。

試しの時間で自分や友達が発見した工夫を参考にして、自分のイメージしたことや思い付いたことを作品として表現した。イメージがわからない時は、偶然できた形や色を手がかりに発想しながら絵に表しても良いことを伝える。このことで、はっきりとしたイメージがわからなくても、試しの時間で発見した工夫を表現し、そこからどんどんイメージを膨らませている児童の姿がみられた。試しの時間を充実させたことで、画面に表れてきた色や形を手がかりに発想を繰り返しながら、自分のイメージを絵に表すことができた。

児童は、好きな色や使いたい色を机の上にたくさん並べ、混ぜて新しい色を作り喜んでいた。また、自分で作った色を友達同士で交換する場面も見られた。新しい色を発見すると喜んで友達や教師に披露していた。

制作の途中で鑑賞の時間を設けた。自分の作品を褒められたことで自信がついたり、友達のよいところを自分の作品に取り入れたりしていた児童の姿が見られた。

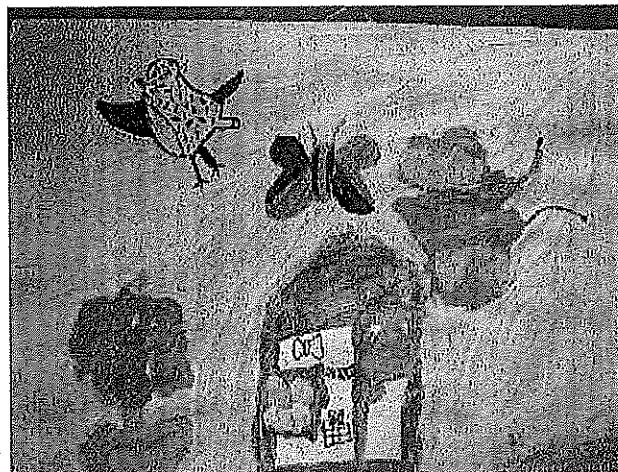
最後に絵の具が完全に乾いたら、ペンで書き加えた。とろとろ絵の具で塗る時は大胆に表現していましたが、ペン書きではとても慎重になって表現していました。ペンで書き加えると、作品がどんな風に変わらるのだろうという新たな楽しみがあった。また、作品の完成度が高まり、児童の作品に対する思いが一層深まった。



【児童の作品】



絵の具の感触を楽しみながら、形や色を自分の行為や感覚でとらえていた。虹は指に絵の具をたっぷり付け、すばやく指を動かし、大胆に描いていた。「最後にここには手形をつけよう」と、自分のイメージをはっきりさせていた。



はじめから風景を描きたいという明確なイメージをもって制作していた児童の作品である。絵を描くことが好きな児童で、普段の授業ではいつも明るい色を使って、意欲的に描いている。最後に鳥を描きたくなり、楽しそうにペンで描き加えていた。



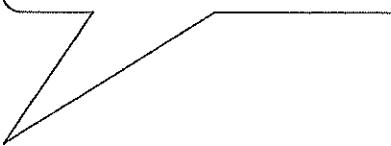
試しの活動では、手形を押すことに興味をもち、作品制作では慎重に手形を押していた。また、カップの底に絵の具を付けてスタンプのように押す工夫を発見し、意欲的に取り組んでいた。



銀に近い色を作りたいという思いがあり、一生懸命色を混ぜていた。自分の気に入った色を作ることができ、画面いっぱいに色を塗っていた。遠くから見たら、麦畑に見えることを発見した。そのため、後から、麦畑で働いている人や機械を付け足した。自分の作品が気に入り、友達や教師に作品の説明を一生懸命していた。



何を描くかなかなか決まらず、とりあえず自分の好きな色を作り、紙の上で大胆にのばしたり、手形をおしたりしていた。ふと見たら、偶然できた形が木に鳥がいるような感じに見えることを発見した。発見した時はうれしそうに教師に報告しに来た。そこから意欲的に活動するようになり、どんどん制作が進んだ。



III 研究の成果と課題

1 成果

- 初めて出会う素材であったが、素材と直接触れあって活動する中で、様々な発見をすることができた。楽しみながらつくり出す喜びを味わい、イメージを広げ、主体的に表現することができた。
- 導入で試しの時間を設けたことで、試行錯誤することができた。試しの時間で児童が見付けた表現方法を紹介する時間を設け、共有することで、作品制作の時間ではたくさんの表現方法から自分のイメージに合った表現方法で表現することができた。
- 途中で鑑賞の時間を設けたことにより、友達の表現から新しい発想をしたり、友達の作品のよい部分を認め合ったりする姿が見られた。友達の作品からヒントをもらい、友達のよい部分を自分の作品に取り入れることができた。

2 課題

- 今回は、絵の具とペン、画用紙で統一したが、扱いやすいクレヨンやパス、ダンボール紙やいろいろな紙の大きさにするなど工夫をすれば、児童の表現の幅も広がり、イメージもより広がると感じた。
- 材料の準備を計画的に行う必要がある題材である。カップはクラスで100個以上用意するので、早い段階から集めておかなければならない。やりたい時にすぐにできる題材ではないので、計画的に準備しておく必要性を感じた。
- 片付けは10分程度を予定していたが、低学年なので思っていた以上に時間がかかり、実際は予定時間を大幅に超えてしまった。片付けの際には、教師が行う活動、児童が行う活動をきちんと選別して、児童がどんな活動をするのか視覚的にも分かるようにしなければならない。

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省 平成29年7月
ポイントと授業づくり 図画工作 藤江 充 東洋館 平成20年11月